

生田緑地内ソメイヨシノからのナラタケモドキの再発生

森林総合研究所 305-8687 茨城県つくば市松の里 1

川崎市青少年科学館 214-0032 川崎市多摩区枳形7-1-2

佐藤大樹*¹・太田祐子*¹・吉田三夫*²

Re-appearance of *Armillaria tabescens* basidiocarps in 2003 from the same cherry tree roots that yielded the basidiocarps in 2002 in Ikuta Ryokuch Park, Kawasaki, Kanagawa, Japan

Hiroki SATO*¹, Yuko OTA*¹ and Mitsuo YOSHIDA*²

緒言

樹病は進展が遅くかつ慢性的に発生し、寄主の枯死まで長期間を要する場合が多い。病原体の性状を把握するためには、できる限り長期間、感染木が枯死に至るまでの病徴の状態および、子実体の発生消長を記録しておく必要がある。また、寄主の枯死後も子実体形成を行う病原体の場合には、感染木の枯死後も病原体の動向の調査を継続する必要がある。昨年著者らはソメイヨシノのならたけもどき病を、生田緑地において記録した(佐藤・太田, 2003)。本年は、昨年ならたけもどき病の生じていた同一の桜2本について、その樹勢と病原体子実体の発生の有無と時期を記録する目的で行った調査結果を報告する。

調査方法

調査日 2003年5月11日、8月30日、9月11日、18日
調査木 桜1、桜2。佐藤・太田(2003)で調査したものと同一木。
調査項目 生死の判定。樹勢の記録。ナラタケモドキの発達段階の記録。

結果

5月の調査の時点で、桜1は、葉が少なく樹勢は衰えており(図1)、桜2は、本年は新葉を展開せず枯死していた(図2)。8月30日、桜1、2ともに幹の根際および、周辺の地上部に浮き出した根の上に約1cmほどの小形の子実体が株になった状態が多数認められた(図3)。9月11日多数の子実体の束生が桜1および2の根元に認められた(図4、5)。すでに最盛期を過ぎ、子実体の枯死および分解が始まっていた。9月18日桜1、2から出現したナラタケモドキは全て分解中であった(図6)。

考察

佐藤・太田(2003)によると、昨年(2002年)に発生したナラタケモドキ子実体は9月8日に全盛を少し過ぎて一部枯死、9月17日に全枯死したと記述されている。本

年も、昨年とほぼ同じ時期に子実体が出現した。特に今回は8月下旬に調査を行い、若い子実体を確認できた。8月の下旬時点で1cm以下であった子実体が、約10日間の内に急速に成長して枯死した。本菌の成熟した子実体の寿命は1週間程度であろうと推定された。

ナラタケモドキは枯死木からも、子実体を発生させることが知られている(今関・本郷, 1987)。今回は、寄主木であるソメイヨシノ(桜2)が枯死した当年の子実体発生を観察したことになる。今後、同一木の観察を継続することにより、子実体が毎年同時期に発生するのかどうか、そして、担子胞子による分散可能年数が判明するだろう。

摘要

生田緑地において、2002年にならたけもどき病に感染していた2本のソメイヨシノの内、1本が2003年に枯死した。昨年とほぼ同時期である2003年9月初旬に、枯死木、生木共にナラタケモドキ子実体の発生が認められた。これは、昨年と同時期の発生であった。

Summary

In early September 2002, many basidiocarps of *Armillaria tabescens* were observed on the roots of two individual cherry trees (*Prunus yedoensis*) alive, which were suggesting infection with this fungus. One of these trees was killed by this fungus in 2003, and many basidiocarps were observed in early September again as well as the other tree alive.

引用文献

- 今関六也・本郷次雄(1987) 原色日本新菌類図鑑 (I) pp. 325.
佐藤大樹・太田祐子(2003) 生田緑地で観察されたソメイヨシノのならたけもどき病.
川崎市青少年科学館紀要(14): 5-7.

*1 森林総合研究所

*2 青少年科学館

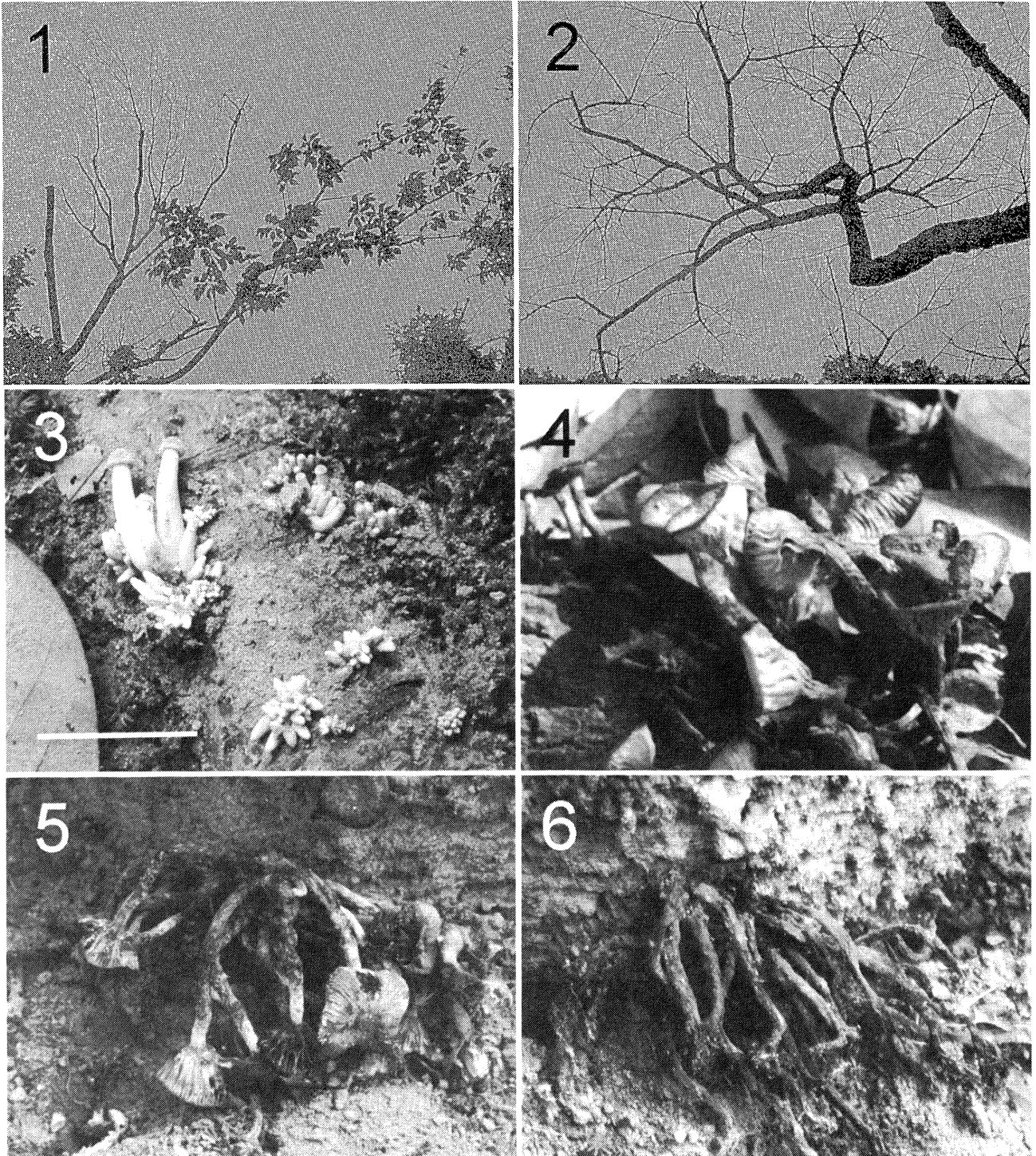


図 1-6.

図 1. 樹勢の衰えた桜1の枝. 2003年5月11日撮影.

図 2. 枯死した桜2の枝. 2003年5月11日撮影.

図 3. ナラタケモドキの若い子実体. 2003年8月30日撮影. スケールは1 cm.

図 4. 桜1から発生したナラタケモドキ子実体. 2003年9月11日撮影. 傘の直径は3 cm前後.

図 5. 桜2から発生したナラタケモドキ子実体. 2003年9月11日撮影.

図 6. 分解中のナラタケモドキ子実体. 桜2より. 2003年9月18日撮影.